

社会教育委員さんとの話し合いで競争は大切だという意見を聞き、また日高室長のご提案にも「平等と競争を明記する必要がある」とありましたので、私なりの競争についての考えを述べさせていただきたいと思います。

競争については、幼稚園の運動会前に職員で話し合いを積み重ねたことを思い出します。運動会では年長児がリレーをします。リレーは子どもたちに大人気です。当然勝敗はみんなの前で発表します。結果を聞いて子どもたちは一喜一憂です。

「勝った。うれしい」「次もがんばる」「負けて悔しい」「どうせ負ける」「やっても無理」等子どもたちは様々な感情を持ちます。またリレーは全員リレーなので、早い子もそうでない子もいます。早い遅い関係なく子どもたちにどうすれば勝てるのかを話し合いで考えてもらいます。それらが大事だと思います。それが教育ではないでしょうか。教師は競争することで、何を学ばせたいのかを明確にし、子どもたちにはどんな学びがあるのかを知ることが大切です。

ただ、いつも私が子どもたちに伝えていたのは「勝つためにどうすればよいのかを考えるのは大事なこと。でも相手を負けさせるにはどうすればよいのかと考えるのは違うよ。」

ということでした。勝てたのは、リレーで勝負をしてくれた相手（友達）がいたからで「勝負してくれてありがとう」という気持ちを持ってほしいということも伝えていました。（これは、ちょっと難しかったかな）

この前の小学校の運動会でも、6年生の団体競技で負けたチームの男児が悔し涙を流していました。それを見て、同じチームの友達がそっと肩をたたいて励ます姿をみることができました。ほんの数秒でしたが、私はとても感動しました。他の学年でも団体戦で「1位は〇〇色」という結果発表に、負けても惜しまない拍手を送る子どもたちの姿がありました。

そんな経験も競争から得た大切な経験です。子どもたちはしっかりと学んでいます。

勝敗が決まるまでの過程を大切にするとともに、勝つために努力し、勝ったことを喜び、そして相手をリスペクトする。負けても諦めない、なぜ負けたのかを考え今度こそと一層努力する。非認知能力の育ちにも関わってきます。「勝てばいい。負けはだめ。」という結果重視の発想では何も生まれませんと思います。

子どもたちが探求心を持って主体的に行動し、それが実現でき自分たちの力で進めていった時にはじめて自由だといえるのかもしれません。

そのようなことが、生駒市の教育大綱に活かすことができればと思います。